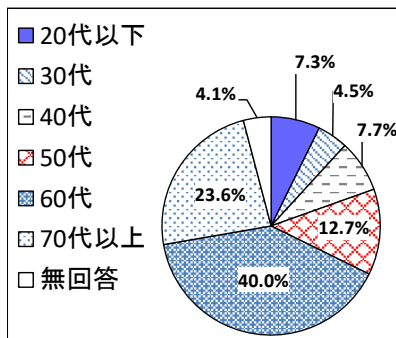


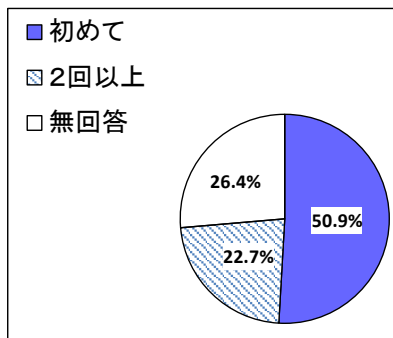
# 1 参加住民アンケート結果

アンケート回答者数220人(伊方町85人、八幡浜市38人、大洲市12人、西予市37人、宇和島市33人、伊予市15人)

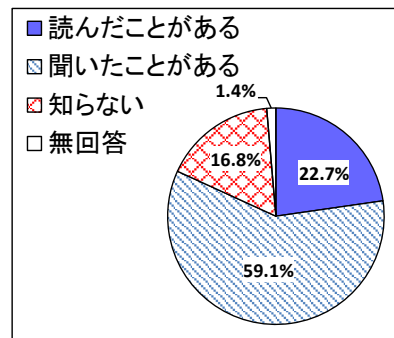
Q 回答者の年齢



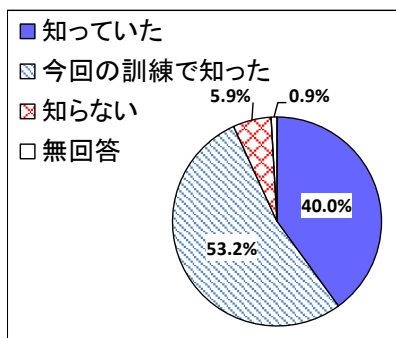
Q 回答者の原子力防災訓練への参加回数



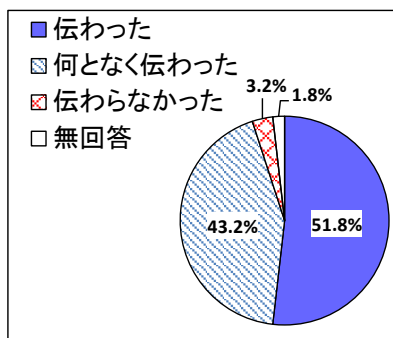
Q1 愛媛県広域避難計画を知っていますか



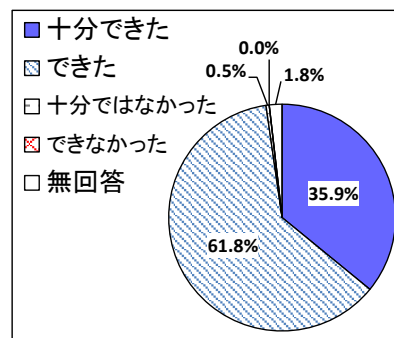
Q2 原子力災害時の避難方法を知っていますか



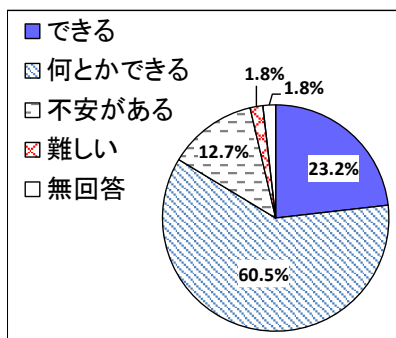
Q3 住民広報は確実に伝わりましたか



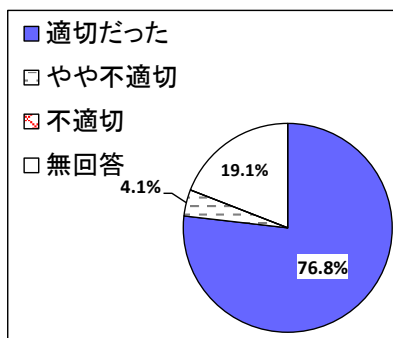
Q4 避難はスムーズに行えましたか



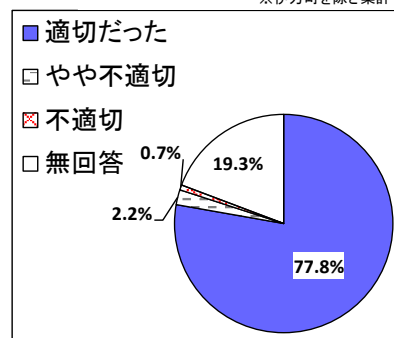
Q5 訓練を体験して避難は行えると感じましたか



Q6 一時集結所の運営は適切でしたか

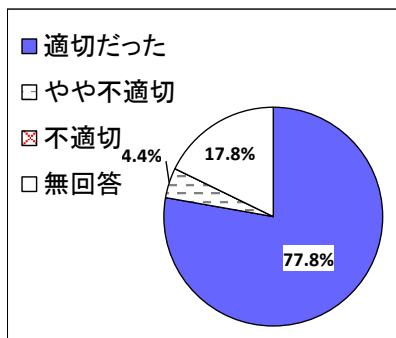


Q7 安定ヨウ素剤の配布、服用は適切に行えましたか

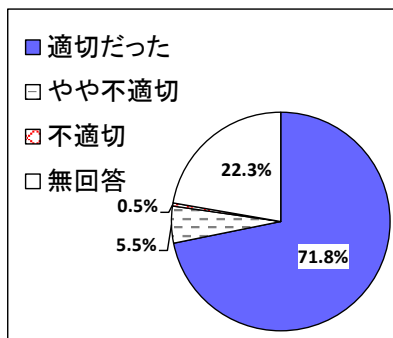


Q8 避難退域時検査の運営は適切でしたか

※伊方町を除き集計



Q9 避難経由所・避難所の運営は適切でしたか

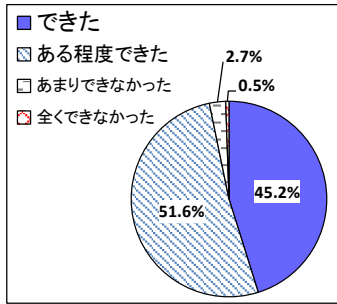


## <主な意見>

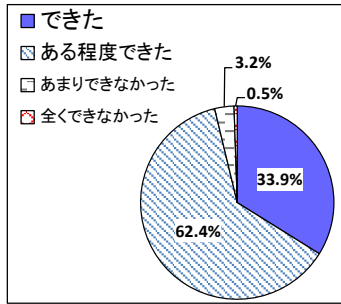
- ・実際に訓練に参加したことで、漠然としていたものが解消されて良かった。
- ・日頃から災害を意識して生活し、いざという時に少しでも早く行動できるようにしたいと思った。
- ・海が荒い時はどうい対応になるのかやや不明。
- ・避難退域時検査の具体的な説明がないまま、バスに同乗していた職員が検査を受けており、車内からは何をしているかわからなかったため、住民が検査を受けるか、検査の様子を近くで見せる等改善してほしい。
- ・一時集結所やバス車内での説明が聞こえにくいことがあったため、常にマイクを使用してほしい。

## 2 要員アンケート結果(図上訓練) アンケート回答者数186人

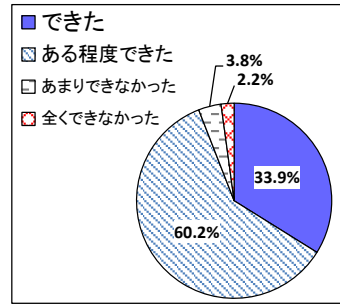
Q1 訓練想定や目的等を理解し訓練参加できましたか



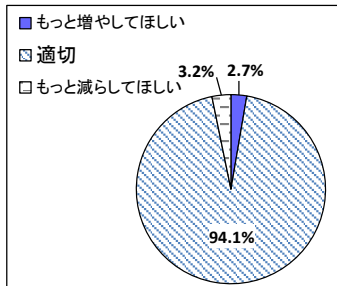
Q2 自らの役割を果たすことができましたか



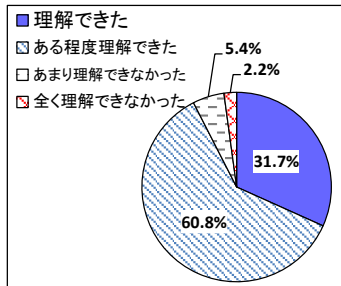
Q3 訓練参加機関との連携はできましたか



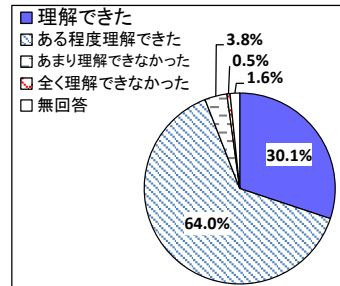
Q4 訓練における役割分担はどうでしたか



Q5 住民避難の対応等について理解が進みましたか



Q6 災害対策本部やオフサイトセンターの対応等について理解が進みましたか



### <主な意見>

(災害対策本部訓練)

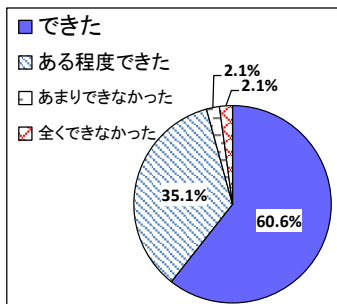
- ・NISSがあることで、情報共有がしやすくなる点は良かったが、全ての班が同じように関係機関からの情報を確認できるが故に、どの班が対応すべきか戸惑ったり、対応漏れが発生したりしていた点は今後改善できたら良いと感じた。
- ・状況付与のタイミングなど、緩急をつけたオペレーションで緊張感を持って取り組めたことはとても良かった。

(オフサイトセンター運営訓練)

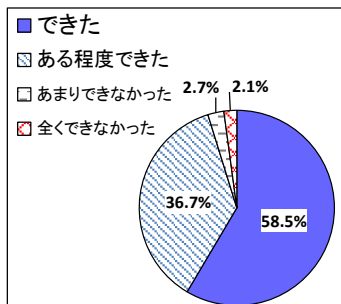
- ・効果的にスキップを組み込むなどして、放射性物質放出後の対応をすることも効果的なシナリオと考える。
- ・様々な機関から要員が参加し、初対面の者が大半を占める中でも、一体となって対応を確認できたことは良好であった。経験値の違いなどから個人のスキルに差があることを実感するとともに、研修などの機会をより多く設け改善を図る必要があると思った。

## 3 要員アンケート結果(実動訓練) アンケート回答者数188人

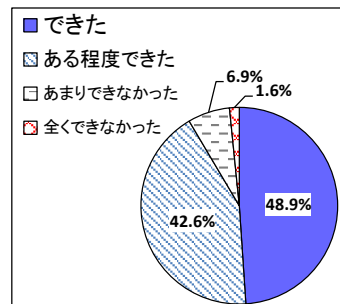
Q1 訓練想定や目的等を理解し訓練参加できましたか



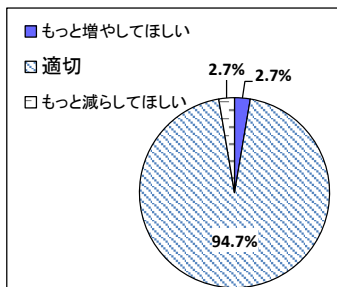
Q2 自らの役割を果たすことができましたか



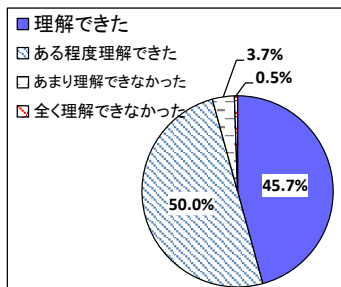
Q3 訓練参加機関との連携はできましたか



Q4 訓練における役割分担はどうでしたか



Q5 住民避難の対応等について理解が進みましたか



### <主な意見>

(海上モニタリング訓練)

- ・関係期間との事前調整が密にできていたため、円滑に実施することができた。今後も繰り返し訓練を行い、様々な状況に対応できるよう準備が必要。

(原子力災害医療活動訓練)

- ・(避難退域時検査訓練について)実施件数が少なく、実際に検査を実施する際のスピード感は掴めなかったため、車両台数を増やす等、忙しい状況の訓練をしておけば有益と感じた。

(住民避難・誘導訓練)

- ・海路避難が中止となった場合の代替手段を準備しておく必要がある。
- ・地域住民自らが放射線防護対策施設をスムーズに稼働できる体制が必要。